

人間動物関係学特論演習 (2単位)

担当者氏名 小川 博・佐々木 剛・松林尚志・増田宏司・土田あさみ

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

暮らしの中の動物を対象とし、行動、遺伝などの動物学的特性、人による行動管理、社会的な問題などの様々なテーマについて、国内外の文献を熟読し、その内容をまとめ発表し、教員と受講生全員で討議する。また、野生動物の野外調査に関わる方法やデータの解析方法など、研究を実践していくための技術を修得するとともに、動物の種多様性と、生理、生態、行動など多様な姿を理解する。これらの講義を通じて、人の生活を向上させるための動物活用や野生動物の保全を進めることのできる人材を養成する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

人間動物関係学 野生動物 伴侶動物 動物の生態
 動物の行動 動物の進化・遺伝 動物活用

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	暮らしの中の動物	人間動物関係学で扱う動物について学ぶ	◎各項目について、事前に調べておく◎演習に必要な機材や手法について、使用方法や方法について調べ、理解しておく◎購読する文献について事前に理解をしておく
2	動物の分類	本領域に関わる動物の種、進化、系統分類等について	
3	動物飼養管理	伴侶動物や野生動物の飼養管理	
4	動物の人への効果・影響	動物の人に対する効果や影響について理解する	
5	動物の利活用	伴侶動物や野生動物の利活用について考える	
6	動物の社会貢献	動物の社会貢献について考える	
7	動物のコミュニケーション	種々の動物のコミュニケーションについて学ぶ	
8	動物の認知科学	動物の認知について学ぶ	
9	動物の行動	動物の行動発達について学ぶ	
10	動物の生態 (一)	カメラトラップやテレメトリ等の行動調査法、痕跡による種同定、各種の個体数推定法、捕獲法について学ぶ	
11	動物の生態 (二)	パッドレクターを使ったコウモリのコミュニケーション観察	
12	対立遺伝子と表現型	遺伝的多様性と表現型の多型について学ぶ	
13	集団の遺伝	集団レベルでの遺伝現象について学ぶ	
14	動物の行動学的調査法	行動テストおよびその解析法について	
15	総括	講義内容の復習および補足	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)
 資料等は必要に応じて配布する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)
 野生動物の研究と管理技術/鈴木正嗣 編訳/文永堂 (2001)
 バイオセラピー学入門 (講談社) ほか、授業の中で提示する

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポートの提出等で評価する

◆オフィスアワー

水曜日の 12:30~13:00

◆その他受講上の注意事項

学外において実施するものがあり、宿泊を伴う場合がある。日程の変更を伴う場合がある。